

自 己 評 価 表

教育方針	教育基本法・学校教育法に基づいて、勤労と責任を尊び、真理と正義を愛するとともに、社会的使命感を自覚し、国際社会の平和と人類の発展に貢献できる、心身ともに健全な青年を育成する。	重点努力目標	「自らを磨く力・他と協力する心の育成」 ー夢の実現に向け、地域と共に歩む人づくりー (1) 自己の進路への自覚を深めさせる学習を通じた確かな学力の定着と向上 (2) 豊かな人間や健康・体力などの社会で生きる力の育成 (3) 「夢」をかなえる進路指導の充実 (4) 地域に信頼され、地域に貢献できる学校づくり・人づくり
------	---	--------	---

領域	評価項目	本年度年度具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	重点努力目標達成への努力	重点努力目標及びマニフェストの数値目標を踏まえた教育活動を実践する。	B	新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、良好な教育活動が実践できるようになった。	ICT機器を活用しながら、各科・課の連携を図り、円滑な学校経営に努めたい。
	地域と連携した教育活動の推進と特色ある学校づくり	本校の教育資源を活用した行事を展開し、地域との連携を図る。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で中止・延期した行事が再開できるようになり、地域と連携した活動ができるようになった。	本校の教育資源を活用して、積極的に地域と連携を図った教育活動を進めたい。
		地域と連携し、「産業社会と人間」「総合探究Ⅰ」「総合探究Ⅱ」の学習活動を充実させる。	C	総合発表会をゆめみかんで実施し、保護者や地域の方々にご参観いただくことができた。社会人講師を活用するなど、「地域から学ぶ」本校ならではの学習活動を展開することができた。	総合探究Ⅱにおいては、以前から保育所や保健所等の外部に生徒が御指導を仰いでいる。こうした伝統を保持しつつ、さらに地域との連携を深めたい。
教科指導	指導方法の工夫・改善と分ける授業の展開	学習指導法(ティーム・ティーチングや少人数授業、習熟度別学習、ICT機器の活用)の工夫と改善に努め、生徒自ら学ぶ意欲を高める。	B	電子黒板や生徒の1人1台端末など、ICT機器を利用する方法や場面を工夫した授業が多く見られるようになった。	教員のICT活用のスキルアップを図り、より効果的な活用方法を研究し、生徒の理解や関心を高めることができるようにしていきたい。
		社会人講師を活用した特色ある授業を推進する。(社会人講師活用授業年間80時間以上) A:80時間以上 B:79~70時間 C:69~60時間 D:59~50時間 E:50時間未満	A	対面・オンラインでの社会人講師を活用した授業の実施時間数は82時間であった。社会人による講義等の実施により教育内容の充実を図り視野を広げることができた。	社会人を活用した授業の実施により、より専門的な知識・技術の習得を含め視野を広げ、学習意欲の向上につなげていけるよう、教育環境を整えたい。
	適切な評価の工夫	評価規準を明確にした上で、教科会を定期的に関き、教科内で評価に関する共通理解を図る。 A:10回以上 B:9~8回 C:7~6回 D:5~4回 E:4回未満	A	全ての教科において、10回以上教科会を行っている。観点別評価方法についても、各教科内で研究が進められている。	来年度以降も各教科において「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価の方法について積極的に研究を行いたい。

*評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

教科指導	資格取得の推進	資格取得への意欲を持たせる。(資格取得者延べ400名以上) A:400名以上 B:399~350名 C:349~300名 D:299~250名 E:250名未満	A	資格試験を実施している教科は、国語科・英語科・家庭科・商業科・福祉科で、資格取得者数は421名であった。	1人でも多くの生徒が上位級にチャレンジできる教育環境を整備していきたい。
	家庭学習の充実	一日の家庭学習時間を平均2時間以上確保させ、学力の向上を目指す。 A:2時間以上 B:1時間59分~1時間45分 C:1時間44分~1時間30分 D:1時間29分~1時間15分 E:1時間15分未満	D	全校生徒の1日の平均時間は1時間22分であった。2時間以上の目標を達成している生徒は、1年次生17名・2年次生10名・3年次生13名の合計40名であった。	家庭学習を習慣化させていく必要がある。ClassiやTeamsを有効に活用し、課題配信等を積極的に行い、家庭学習時間の確保に努めたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	遅刻者0名の日100日以上を目指す。 A:100日以上 B:99~95日 C:94~90日 D:89~85日 E:85日未満	A	不登校傾向の生徒や一時的な病気による遅刻の生徒が数名いたが、遅刻者0名の日は100日以上あった。	引き続き、日頃から体調を整え、寝坊や不注意による遅刻をしないよう呼び掛けていきたい。
	学校安全の推進	防災退避訓練では、人命第一の避難と安否確認をすみやかに行う。	A	予告なしで詳細を知らせずに実施したが、迅速に避難することかできた。また、緩降機を使うなど実践的な訓練を行うことができた。	様々なことを想定しながら、より効果的な避難訓練になるように実践的な訓練を継続する。
本人の不注意による交通事故発生件数0件を目指す。 A:0件 B:1~5件 C:6~10件 D:11~15件 E:15件以上		C	いずれも自転車通学生で、9月までに、自動車との接触が3件、自転車との接触が1件、不注意による転倒が2件あった(大きなけがには至っていない)。10月以降は交通事故の報告はなかった。	ホームルーム活動や全校集会等を通じて、交通安全意識の高揚を図り、被害者・加害者にならないよう呼び掛けていきたい。また、教員による交通安全指導を継続していきたい。	
特別活動	ホームルーム経営の充実	クラスの連帯感や生徒間の人間関係の構築を促し、誰もが安心できる学級づくりを目指す。(個人面談各学期2回以上) A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:3回未満	A	ホームルーム担当が、丁寧に個別対応している。また、ホームルーム担当だけでなく年次主任をはじめ年次団で連携を深めて対応している場面も見られた。	ホームルーム担当だけでは対応しきれない場合の、周囲のスピーディーな判断と対応がさらに必要である。可視化された組織体制の構築を図っていきたい。
	学校行事・生徒会活動等の活性化	学校行事満足度90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:60%未満	B	生徒数も減少し、コロナ禍前の行事と比べると物足りなさを感じるのかもしれないが、アイデアを出し合い工夫された行事もあった。	生徒数も減少し、学校行事が縮小されていく中で、以前とは違った新しいアイデアを出しながら活気あるものを作っていきたい。
	体験的学習への意欲的取組	ボランティア活動認定者100名以上を目指す。 A:100名以上 B:99~80名 C:79~60名 D:59~40名 E:40名未満	A	ボランティア活動認定登録者が151名、ボランティア活動認定者数が113名であった。地域からのボランティア活動派遣依頼が多数あり、生徒が積極的に参加していた。	今まで以上に、個人の参加だけでなく、部活動単位、講座単位などで積極的に活動することにより、ボランティア活動の活性化を図りたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:60%未満	A	部活動の加入率は96%であった。生徒数が減少しており各部活動の人数確保が困難になってきている。運動部の加入率よりも文化部の加入率が多くなってきた。	今後は、生徒数の減少に伴って部活動の精選が求められる。部活動数の検討だけでなく、活動内容も考えていきたい。

*評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

特別活動	部活動の活性化	県総体出場75%以上を目指す。 A:75%以上 B:74~70% C:69~60% D:59~50% E:50%未満	D	運動部の54%の生徒が県総体出場を果たした。運動部数に変化はないが、部員数が少ないために出場人数の割合も減っている。	南予地区予選を実施しない部活動が増えてきていることもあり、新しい部活動のあり方を考えていきたい。
		県高文祭出場75%以上を目指す。 A:75%以上 B:74~70% C:69~60% D:59~50% E:50%未満	A	文化部80%の生徒が県高文祭出場を果たした。部活動顧問の熱意により、毎年様々な工夫を凝らして出場できている。	県高文祭出場だけでなく、地域のボランティア活動と併せて、校外での地域活動も行い活性化させたい。
進路指導	生徒の進路実現の達成	生徒の進路実現において、進路決定100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:70%未満	B	3年次生のうち進路未決定生徒が1名(縁故就職予定)である。残りの3年次生全員が進路先は決定している。	今後も進路決定100%達成を目標に、進路指導に取り組みたい。
	ガイダンス機能の充実	進路オリエンテーション・進路説明会の機会を確保し、内容を充実させる。	C	年度当初に各年次で進路オリエンテーションを実施するほか、7月に3年次生進学希望生徒を対象に、推薦入試オリエンテーションを実施した。進路説明会も生徒の進路希望に応じて実施できた。	進路説明会の対象を従来の3年次生中心から、2年次生へと変更し、早期に進路について意識させることができた。
		面接試験・小論文試験等における傾向と対策を研究し、指導内容の充実を図る。	C	面接は就職・進学ともに全教員に振り分けて実施した。小論文は進路課と国語科の連携のもと指導を行った。	面接が必須となる就職はもちろん、面接の評価が合否に大きく影響する推薦入試等による進学も多いため、来年度以降も全教員での対応を実施したい。
		川高セミナー・就職指導・補習の内容を充実させる。社会人講師による講演を年間5回以上実施する。キャリアカウンセラーの積極的な活用により就職の意識を高める。 A:5回以上 B:4回 C:3回 D:2回 E:2回未満	C	社会人講師による講演は就職希望生徒を対象として3回実施した。進学補習生に対する課外授業は水曜日を除く平日に実施し、夏・冬の長期休業中にも実施した。	生徒のキャリア形成を意識した取組として就職希望者と本校卒業生の若手社会人との座談会を新規に実施した。今後も効果的な方法を研究したい。
情報提供の充実	進路情報の文書配布や広報活動を通して、生徒・保護者に情報を提供する。	C	進路業者からの情報誌配布や上級学校のオープンキャンパス情報の掲示など生徒の進路選択に役立つ情報を提供できた。	上級学校の情報については、より見やすい掲示を心掛け工夫していきたい。	

*評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

人権・同教	生徒の人権意識の向上	「人権だより」を年間10回発行する。人権・同和教育ホームルーム活動や講演会を通じて、人権問題の解決のための実践力の育成に努める。 A:10回 B:9回 C:8回 D:7回 E:7回未満	A	人権だよりを計画的に発行し、ホームルーム活動や講演会など人権学習の振り返りに活用できた。	家庭でも人権について考える機会となるよう、より多くの保護者に読んでもらう工夫をしていきたい。
	教育相談体制の充実	「教育相談だより」を年4回以上発行し、生徒及び保護者への相談体制の周知を図る。 A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:0回	A	スクールライフアドバイザーと相談をしながら、必要と思われる時期に教育相談だよりを発行している。保護者の来室相談も増加した。	カウンセリング室が人通りの多い場所にあるため、目立ちにくい場所への移動を検討したい。(人目を気にして相談に行きにくい生徒もいるため。)
情報・図書・研修	校内LAN及びコンピュータの適切な利用促進	研修会又は情報提供を年間4回以上行い、教職員の活用に関する基本的な知識・技術の育成を図る。 A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:0回	B	情報セキュリティやモラルに関して、研修会の報告および研修を実施することができた。	県で策定されている「ICT教育推進のcan-Doリスト」の目標を達成できるよう効果的な研修を実施していく。
	ホームページの充実	ホームページの内容を年間190回以上更新し、魅力あるホームページの作成に努める。 A:190回以上 B:189~170回 C:169~150回 D:149~130回 E:130回未満	A	教頭の声かけもあり、教職員の協力が得られて目標を達成することができた。	川高日記への投稿者にまだ偏りが見られる。ICTリテラシー向上を図るためにも多くの教職員からの投稿を呼びかけていく。
	校内研修の充実	授業公開や研究授業を年間8回以上実施し、相互研修に努め指導力の向上を図る。 A:8回以上 B:7回 C:6回 D:5回 E:5回未満	A	本年度は学校訪問研修もあり、半数以上の教員が研修を1回以上行うことができた。	次年度は通常年度の研修回数に戻すが、研修の内容が充実するように努めた。
業務改善	職場環境の改善	職場環境の改善に努め、業務の効率化を図り、時間の有効活用を行うことで、教職員の心理的負担の軽減を図る。	A	毎週木曜日の定時退庁日の実施、朝の職員朝礼を毎日から火・木曜日の2回に削減、運営委員会・職員会議を2か月に1回の開催(必要な場合は随時開催)とし、教職員の負担軽減に努めることができた。	ワークライフバランスの実現に向け、勤務時間の短縮の工夫と休暇等を取りやすい環境など働き方改革の実施に取り組みたい。

*評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。